

## 重点課題 1

## 安全、安心な社会づくりへの貢献

2030年  
目標

- (1) ICT社会の発展に貢献する製品・サービスの技術開発と普及  
 (2) 建造物の老朽化・不具合の検査効率化による社会インフラの安全性向上

現代社会において、人々の安全を脅かすリスクは多様化し、急激な情報化に伴うネット犯罪の増加や、増大するデジタルデータの管理、社会インフラの老朽化など、新たな問題が発生しています。富士フィルムグループは、変化する社会のリスクに対応し、被害を低減する新たな技術を開発・普及させることで、ビッグデータ時代のデジタルデータの安全な長期保存、情報セキュリティの向上、社会インフラ整備など、安全・安心な社会づくりに貢献します。

2018年度  
の活動

## 【目標】アーカイブデータのテープ保存率100%を目指す

- 「ビッグデータ・IoT時代を支えるバリウムフェライト磁性体を用いた大容量データテープの開発」で第7回 技術経営・イノベーション賞「経済産業大臣賞」を受賞(富士フィルム)

## 【目標】非破壊検査システム等の提供を通じた老朽化・不具合の検査

- 次世代AI技術開発拠点FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s) (ブレインズ)九州」を開設し、橋梁など社会インフラ構造物の点検・診断業務を効率化する次世代AI技術の研究推進

## 【その他の主な活動】

- 先端の光学技術・画像処理技術を結集したレンズ一体型の遠望監視カメラ「FUJIFILM SX800」を2019年7月に発売し、遠望監視カメラ市場に新規参入
- 多言語で施設情報や災害時案内を配信するクラウド型サイネージサービス「SkyDesk Media Message」を販売開始



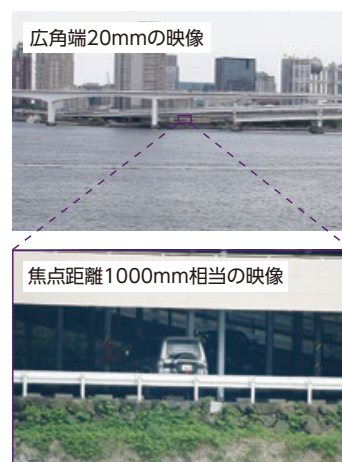
「第7回 技術経営・イノベーション賞」授賞式

今後の  
活動&目標

- 磁気テープのさらなる大容量化により、世の中のデータの安全・安価・長期保管を推進
- 社会インフラの安全性向上に向け、次世代AI技術研究のさらなる推進
- 4K/8K対応の放送用レンズなどで培った最高度の光学技術とデジタルカメラ「Xシリーズ」に搭載の最先端画像処理技術を駆使した画期的な遠望監視カメラの開発

富士フィルムグループは、安全、安心な社会づくりのために、様々なリスクに対応する製品の開発を進めています。2018年度は、2017年に提供を開始した社会インフラ画像診断サービスについて、長崎県・長崎大学との協業により診断を効率化する研究を開始(P32参照)したほか、セキュリティ対策として近年需要が高まる遠望監視カメラの分野に新たに参入しました。長年培ってきた光学技術と最先端の画像処理技術を結集し、高い防振性能、高速・高精度AFなど、従来の遠望監視カメラが抱える課題を解決する画期的な製品です。また、2019年9月には、従来比2倍の最大記録容量30TBを実現した磁気テープストレージメディア「FUJIFILM LTO Ultrium8 データカートリッジ(LTO8)」を発売しました。富士フィルムは、2011年に世界で初めて磁気特性・長

期保存性に優れる微粒子「BaFe磁性体」を用いた磁気テープを実用化、高性能・高品質な大容量磁気テープの開発に取り組んできました。今後は、LTO8をデータアーカイブストレージシステムと組み合わせ、省エネルギーを実現しながら大容量データを保管したいというニーズに応えます。



第一弾として発売した「FUJIFILM SX800」は世界最遠800mmまでの焦点距離をカバー。遠方の対象物を鮮明な映像で瞬時にとらえることができる